

野菜の需給・価格動向レポート（平成30年3月12日版）

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	2月の価格情報				3月	2月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	3月の主産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格							(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格
		月上旬	中旬	下旬					
葉菜類	キャベツ	96.86	206 (213%)	233 (241%)	245 (253%)	96.86	・4,868t (62%)	愛知(59), 神奈川(20)	愛知産は、1月以降の低温による生育遅れに加え、前倒し出荷で小玉の割合が多いことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。神奈川産は、昨秋の天候不順や12月以降の低温や干ばつ傾向による生育遅れにより、小玉の出荷割合が多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 愛知産及び神奈川産の出荷は平年よりやや少なめ又は少なめと見込まれるものの、春系の増加が見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づき、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		92.10	201 (218%)	235 (255%)	244 (265%)	92.10	・1,619t (53%)		
	たまねぎ	83.77	102 (122%)	105 (126%)	104 (125%)	83.77	・5,315t (87%)	北海道(75), 静岡(9)	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		83.77	101 (120%)	99 (118%)	99 (119%)	83.77	・2,085t (86%)	北海道(72), 長崎(14), 兵庫(9)	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	127.15	387 (305%)	381 (299%)	415 (327%)	127.15	・1,025t (71%)	千葉(47), 埼玉(26)	千葉産は、干ばつ及び低温による影響で春作の生育遅れや細ものが多く見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。埼玉産は、昨秋の天候不順による影響で下級品の割合が多いものの春物の出荷が始まることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 埼玉産の出荷は平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		473.04	941 (199%)	973 (206%)	1023 (216%)	473.04	・71t (48%)	徳島(27), 三重(16), 奈良(15), 香川(12), 高知(10)	
	はくさい	64.18	142 (221%)	135 (211%)	161 (251%)	64.18	・2,769t (82%)	茨城(61), 兵庫(22)	茨城産は、低温や1月下旬の降雪により、生育遅れがみられ、春作の本格出荷は3月下旬と見込まれることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、昨秋の天候不順や低温の影響で小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 茨城産及び兵庫産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		68.70	161 (234%)	174 (253%)	181 (264%)	68.70	・1,605t (90%)	長崎(67), 熊本(11)	
	ほうれんそう	338.43	729 (216%)	589 (174%)	500 (148%)	338.43	・740t (93%)	茨城(35), 群馬(26), 千葉(14)	茨城産は、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、露地作が順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、昨秋の台風後に追い捲きしたほ場からの出荷が順調なことから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。 群馬産、茨城産及び千葉産の出荷が平年並み又は平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		375.38	776 (207%)	716 (191%)	536 (143%)	375.38	・234t (76%)	福岡(38), 徳島(34), 茨城(11)	
	レタス (結球)	233.85	346 (148%)	330 (141%)	271 (116%)	189.66	・1,926t (76%)	茨城(51), 兵庫(9), 静岡(7)	茨城産は、11月以降の低温により、生育遅れがみられるものの、気温の上昇により肥大順調で、遅れていた2月の出荷がずれこんでいることから、引き続き平年並みの出荷の見込み 兵庫産及び静岡産は、2月の低温、降雪による肥大遅れがみられるものの、気温の上昇とともに出荷増と見込まれることから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。 茨城産の出荷が平年並みと見込まれ、兵庫産及び静岡産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均並みの価格は、平均を下回って推移する見込み。
		226.75	349 (154%)	341 (151%)	293 (129%)	193.43	・464t (69%)	兵庫(34), 茨城(27), 長崎(16), 徳島(13)	
果菜類	きゅうり	370.98	398 (107%)	323 (87%)	292 (79%)	266.63	・2,236t (87%)	群馬(23), 宮崎(19), 千葉(15), 埼玉(15)	群馬産及び宮崎産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、2月以降の好天及び気温の上昇で、生育は概ね順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 群馬産、宮崎産及び千葉産の出荷が平年並み又は平年より多めと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		350.33	385 (110%)	318 (91%)	290 (83%)	254.91	・845t (98%)	宮崎(41), 高知(21), 徳島(17)	
	トマト (大玉)	349.23	313 (90%)	343 (98%)	346 (99%)	356.77	・2,163t (86%)	熊本(26), 栃木(26), 愛知(12)	熊本産及び愛知産は、低温により着色遅れがみられるものの、生育も概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、低温により生育遅れがみられるものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 熊本産、栃木産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		326.61	295 (90%)	329 (101%)	330 (101%)	337.87	・832t (96%)	熊本(76)	
	なす	389.03	452 (116%)	450 (116%)	455 (117%)	347.77	・584t (78%)	高知(59), 福岡(20)	高知産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、3月の気温の上昇により、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 高知産及び福岡産の出荷が平年並みの出荷と見込まれ、今後高知産の出荷が徐々に増加する見込みであることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づき、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		397.74	436 (110%)	432 (109%)	437 (110%)	330.95	・249t (81%)	高知(43), 熊本(21), 福岡(19), 岡山(8)	
ピーマン	578.80	743 (128%)	731 (126%)	689 (119%)	578.80	・503t (78%)	茨城(36), 宮崎(31), 高知(17)	茨城産及び高知産は、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、気温の上昇で弱かった草勢が回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産、宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
	565.30	711 (126%)	698 (123%)	632 (112%)	565.30	・256t (92%)	宮崎(44), 高知(25), 鹿児島(9)		
根菜類	だいこん	79.03	151 (191%)	162 (205%)	161 (203%)	79.03	・2,790t (64%)	神奈川(55), 千葉(38)	神奈川産は、昨秋の天候不順や1月以降の低温により、依然として生育遅れがみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷のまま、月末には出荷終了の見込み。千葉産は、台風後播種したトンネル作が出荷されることから、現在少なめの出荷は、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年より少なめからやや少なめになると見込まれるものの、神奈川産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		80.47	145 (181%)	157 (195%)	146 (181%)	80.47	・1,363t (65%)	鹿児島(38), 長崎(37), 徳島(15)	
	にんじん	111.16	168 (151%)	167 (150%)	163 (146%)	111.16	・2,212t (84%)	千葉(52), 徳島(32)	千葉産は、昨秋の天候不順により肥大不足で、細もの出荷となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。徳島産は、昨秋からの播種期の天候不順により、肥大遅れがみられることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産及び徳島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
109.97		178 (162%)	186 (170%)	188 (171%)	109.97	・528t (70%)	鹿児島(49), 徳島(33), 愛知(11)		

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。  
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。



1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	2月の価格情報					3月 2月下旬の関東 及び近畿ブロックの 入荷量 ( )内は、本年と 過去3カ年平均値 との比率	3月の主産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し		
	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関東・近畿 ブロック 旬別平均販売価額			(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格					
		上旬	中旬	下旬						
いも類	さといも	228.85	285 (124%)	300 (131%)	269 (118%)	228.85	・95t (59%)	埼玉(44), 千葉(37)	→	埼玉産は、貯蔵ものからの計画的な出荷となっており、昨秋の天候不順により小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、貯蔵ものからの計画的な出荷となっており、作付面積の減少に加え、定植時の干ばつ傾向により肥大が進まず、小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		219.65	267 (122%)	295 (134%)	228 (104%)	219.65	・70t (153%)			
	ばれいしよ	96.99	111 (114%)	117 (121%)	116 (119%)	96.99	・2,568t (96%)	北海道(68), 鹿児島(29)	→	北海道産は、貯蔵ものからの計画的な出荷となっており、L及びMサイズ中心の出荷となっているものの、作柄は良好であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、肥大遅れにより、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		96.99	106 (110%)	116 (120%)	112 (116%)	96.99	・1,337t (120%)	北海道(72), 長崎(14), 兵庫(9)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
 2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。  
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	2月の価格情報					3月 2月下旬の東京都・ 大阪市場の入荷量 ( )内は、本年と過 去3カ年平均値との 比率	3月の主産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し		
	(参考) 過去5カ年 平均価格	東京都・大阪市場の 旬別価格			(参考) 過去5カ年 平均価格					
		上旬	中旬	下旬						
洋菜類	ブロッコリー	274.14	682 (249%)	590 (215%)	471 (172%)	248.94	・522t (81%)	愛知(32), 香川(30), 米国(9)	↘	愛知産は、作付面積の増加に加え、最近の好天により生育が回復傾向にあることから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。香川産は、低温による生育遅れがみられるものの、出荷のピークを迎える時期であることから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。
		367.08	732 (199%)	624 (170%)	474 (129%)	336.11	・158t (92%)	徳島(36), 香川(13), 熊本(12), 米国(9)	→	愛知産及び香川産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。
葉菜類	こまつな	345.29	733 (212%)	530 (153%)	450 (130%)	282.42	・197t (82%)	茨城(48), 埼玉(27)	→	茨城産は、気温の上昇により生育が概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、3月の好天により、遅れていた生育が回復傾向にあることから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。
		358.21	692 (193%)	551 (154%)	455 (127%)	252.78	・73t (87%)	福岡(80)		
根菜類	かぶ	141.29	206 (146%)	215 (152%)	199 (141%)	140.95	・223t (71%)	千葉(91)	→	千葉産は、肥大遅れがみられることに加え、昨秋の台風とその後の長雨により播種できなかったほ場があることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		140.01	209 (149%)	231 (165%)	249 (178%)	158.05	・24t (55%)	徳島(54), 石川(16), 千葉(15)		

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 野菜の輸出入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

○輸入について  
 貿易統計によると、平成29年1月の生鮮野菜の輸入量は、8万9千トン(前年同月比131%)であった。また、輸入量の多い加工野菜は、15万トン(同93%)であり、野菜全体では、23万9千トン(同104%)と前年よりやや増加した。

このうち、中国産の輸入量は合計で13万8千トン(同111%)と、輸入量の58%を占めた。

これは、昨秋の長雨や台風、その後の低温、干ばつにより多くの品目が高値水準で推移したことから、業務用で海外産を仕入れる動きが強まったと考えられる。

○輸出について  
 1月の輸出量は、野菜全体では2102トンと、前年同月を大幅に上回った(前年同月比150%)。生鮮野菜が1029トン(同132%)、加工野菜が1073トン(同173%)と、生鮮及び加工野菜とも前年同月を大幅に上回った。

なお、輸出量が平成29年11月から3カ月前年を大幅に上回ったながいもは、国産の作柄が良く、太物が多いなど品質の良いことや、輸出先国の季節需要による増加とみられる。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成30年1月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年1月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比
生鮮野菜	862,416	97	862,085	100	89,006	131
加工野菜	1,768,893	99	1,890,044	107	149,788	93
野菜合計	2,631,309	99	2,752,129	105	238,795	104
うち中国産野菜合計	1,366,480	97	1,422,558	104	138,309	111
中国産シェア	52		52		58	

主な生鮮野菜の輸入先(平成30年1月)

	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ	20,982	107	中国	20,514	米国	398	タイ	70
キャベツ	13,606	580	中国	12,793	韓国	625	台湾	78
かぼちゃ	12,317	103	メキシコ	8,393	ニュージーランド	3,924		
にんじん	8,220	162	中国	7,618	台湾	473	豪州	124
ねぎ	5,036	117	中国	5,036				
結球レタス	4,617	192	台湾	3,779	米国	655	韓国	151
その他根菜類	4,140	4,826	中国	4,114	韓国	10	オランダ	10
ごぼう	3,741	90	中国	3,718	台湾	23		

同(平成29年1月)

	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ	19,560	中国	18,619	米国	892	タイ	48	
キャベツ	2,346	中国	1,561	ベトナム	664	豪州	58	
かぼちゃ	11,935	メキシコ	8,309	ニュージーランド	3,626			
にんじん	5,060	中国	4,738	ベトナム	179	豪州	114	
ねぎ	4,302	中国	4,302					
結球レタス	2,401	台湾	2,284	米国	116			
その他根菜類	86	中国	75	オランダ	7	ベルギー	2	
ごぼう	4,168	中国	4,156	台湾	12			

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。

※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成30年1月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年1月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比
生鮮野菜	31,867	139	21,546	68	1,029	132
加工野菜	11,032	117	12,257	111	1,073	173
野菜合計	42,899	132	33,802	79	2,102	150

主な生鮮野菜の輸出先(平成30年1月)

	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
ながいも	428	175	台湾	243	米国	130	シンガポール	50
いちご	216	143	香港	170	台湾	30	シンガポール	9
きのこ(その他、はらたけ属以外)	111	93	台湾	59	香港	35	タイ	9

同(平成29年1月)

	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
ながいも	245	台湾	176	米国	49	シンガポール	18	
いちご	152	香港	121	台湾	23	タイ	3	
きのこ(その他、はらたけ属以外)	118	台湾	79	香港	24	タイ	9	

同(平成28年1月)

	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
ながいも	457	台湾	210	米国	164	シンガポール	80	
いちご	78	香港	63	台湾	12	タイ	1	
きのこ(その他、はらたけ属以外)	125	台湾	82	香港	21	タイ	14	

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable\_report.htmlに掲載しています。

※無断転載禁止 ・ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。